

Course number		U-LAS22 20004 SO48					
Course title (and course title in English)		フランス語II B F2155 Intermediate French B		Instructor's name, job title, and department of affiliation		Part-time Lecturer,NISHIMOTO NOA	
Group		Languages		Field(Classification)			
Language of instruction		Japanese		Old group		Group C	
Number of weekly time blocks		1		Class style		Seminar (Foreign language) (Face-to-face course)	
				Year/semesters		2025・Second semester	
Days and periods		Tue.4		Target year		2nd year students or above	
				Eligible students		For all majors	
[Overview and purpose of the course]							
<p>&lt;フランスとフランス語圏の文化&gt;</p> <p>本講義では、フランス語初級文法を終えた受講生を対象とし、主に音声（調音音声学的観点からフランス語に出て来る音の発音の仕方）の再確認、動画資料や音声資料を通じたりスニング能力の向上、フランス語のみならず、補足資料を通じて、一つの事象を様々な視点から考察する力を養うことを目標とする。議題を設け次の週のフィードバックで受講生の考えを共有する。</p> <p>授業では講師の専門領域・研究分野を随時取り上げ、フランス語およびフランス語圏の社会と文化を理解するために次の3点を題材として取り上げる。</p> <p>(1)「言語とは何か?」という問いを答えるために「フランス語」という一つの言語を詳細に見つめて考察する。</p> <p>(2)教科書に沿ってフランス本土の地域の生活習慣、料理、医療問題、社会問題、観光産業、歴史、考古学、産業、生態系サービスと人とののかかわりについて</p> <p>(3)フランス語圏を含む国際社会が抱える現代問題について</p> <p>(1)(2)(3)は平易なフランス語資料を授業で随時配布し、毎回の授業時間の約2割を費やす。できる限り映像資料を毎回取り入れる。</p>							
[Course objectives]							
<p>本講義を通じて、実用面を重視する語学としてのフランス語のみならず、フランス語を通じて世界を見る広い視野と柔軟な姿勢を培うことを目標とする。フランス語の音声、文法、語彙の復習とさらなる発展を目指すと同時に、社会の様々な面で、多角的視点から物事を考察し議論できることを目標とする。</p>							
[Course schedule and contents)]							
<p>毎回受講生からの質問・コメントからはじめ、教科書にそった文法・講読を行う。コラムとして、毎回フランス語のみならず、人文科学、社会科学、自然科学のさまざまな領域および日常生活の問いを取り上げ、文理の垣根を越えた、分野横断的視点で物事を見る能力を養う。（コメントに記載し次週にフィードバック）</p> <p>原則教科書に沿って進む。</p>							
<div style="text-align: right;">Continue to フランス語II B F2155(2)</div>							

## フランス語ⅡB F2155(2)

- 1) オリエンテーション、受講生自己紹介（興味関心について）、文字と発音、フィールド言語学入門（講師のアフリカやオセアニアでのフランス語圏でのフィールドワークなど自己紹介を含む）
- 2) フランス語圏を知る、フランス、旧フランス領、フランス海外県等、形容詞、人間の数の認識について、性・数の一致
- 3) ブルターニュ地方の料理、関係代名詞qui、que  
「食べれる」「食べれない」の区別を我々は無意識にしているのか？
- 4) オー・ドゥ・フランス、オー・ドゥ・フランスの産業、食べ物、能動態、受動態
- 5) アルザス地方、アルザス地方の言語、ドイツとの関わり、国名と冠詞
- 6) ブルゴーニュ地方、伝統的智恵と現代技術について、医療問題、場所を表す前置詞、関係代名詞
- 7) オーヴェルニュ＝ローヌ＝アルプ地域圏、産業、人と自然のかかわり、不規則な形容詞
- 8) プロヴァンス＝アルプ＝コート・ダジュール地域圏、宗教と芸術、条件法、「法」とは何か？
- 9) オクシタニー地域圏、歴史、料理、地域言語、直説法単純未来、近接未来、近接過去
- 10) ヌーヴェル＝アキテーヌ地域圏、観光産業、お菓子作り、中性代名詞
- 11) ペイ・ド・ラ・ロワール地域圏、歴史、離島へ行こう、建築、複合過去、半過去
- 12) サントル＝ヴァル・ド・ロワール地域圏、関係代名詞、補語人称代名詞
- 13) フランス海外県、海外領土、旧フランス領土、存在文、生物と無生物の区別
- 14) これまで学んだフランス語圏の地域に関する討論、復習、映像を通じたリスニング
- 15) フィードバック

### [Course requirements]

Refer to "Handbook of Liberal Arts and General Education Courses".

### [Evaluation methods and policy]

- (1) 平常点（出席、毎回コメントシートの提出）40%
- (2) 小テスト（リスニング）20%
- (3) 期末レポート40%（レポート内容は授業中に指示）

### [Textbooks]

Fabienne Guillemin 『フランス、地方を巡る旅』（駿河台出版社）ISBN:9784411013521

### [Study outside of class (preparation and review)]

1つの課の分量が多いため、必ず事前に読み、ある程度訳せるようにしておくこと。それぞれの地域の一般情報に加え、自然、歴史、宗教、伝統、医療問題、福祉、観光産業など様々なトピックが設けられている。また、どの課も郷土料理やお菓子の紹介がある。目を通した後、自ら進んで、気になるトピックのキーワードをフランス語で検索したり、教科書に記載されているリンクを休み時間でもよいので見ておくこと。

自炊の際に、教科書で取り扱っている料理を作ってみるだけでも、十分にフランス語やフランス語圏への親しみが増す。

### [Other information (office hours, etc.)]

フランス語文法を忘れている、フランス語を話したいが苦手意識が強い、フランス語の発音が上手くできない、ことは問題ない。それらを克服するために、授業中の音声のシャドーイングは臆することなく積極的に参加すること。シャドーイングの際は、インドネーション、リエゾン、自分にとって発音が難しい、間違えて読んでいたところに線を引くこと。

フランス語II B F2155(3)

[Essential courses]